

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 45 回）議事概要（案）

日時：令和 4 年 5 月 12 日（木）15:00～17:00

場所：Web 会議(Webex)

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
 赤羽専門委員（NTT 未来ねっと研究所）、岩田専門委員（(株)テレビ東京）、
 浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、
 児玉専門委員（一般社団法人電波産業会）、下地専門委員（パナソニック(株)）、
 寺田専門委員（日本放送協会）、内藤専門委員（(株)KDDI 総合研究所）、
 西田専門委員（日本放送協会）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、
 深澤専門委員（(株)TBS テレビ）、藤井専門委員（日本放送協会）、
 山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

説明員：

大出氏（日本放送協会）、甲斐氏（日本テレビ放送網(株)）、熊丸氏（日本放送協会）、
 齋藤氏、（日本放送協会）、佐藤氏（日本放送協会）、保谷氏（(株)フジテレビジョン）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課

近藤課長、武馬技術企画官、高橋補佐、高橋係長、飯塚官

【配布資料一覧】

資料 放-45-1	放送業務委員会(第 44 回)議事概要(案)
資料 放-45-2	WP6A 会合報告書（案）
資料 放-45-3	WP6B 会合報告書（案）
資料 放-45-4	WP6C 会合報告書（案）
資料 放-45-5	TG6/1 会合報告書（案）
資料 放-45-6	SG6 会合報告書（案）
資料 放-45-7	<u>次回会合に向けた今後の対応</u>
資料 放-45-8	<u>郵便投票の承認可否（案）</u>
資料 放-45-9	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-45-10	国際電気通信連合（ITU）2023 年世界無線通信会議
（参考資料）	（WRC-23）の議題一覧（第 146 回情報通信審議会情報 通信技術分科会資料一部抜粋）
資料 放-45-11	放送業務委員会構成員名簿
（参考資料）	
資料 放-45-12	<u>郵便投票関連文書</u>
（参考資料）	

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-45-1「放送業務委員会（第44回）議事概要（案）」に基づき、第44回放送業務委員会の議事概要が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省HPに掲載することとなった。

3. ITU-R SG6 及び各 WP 会合の結果について

3.1. WP6A 会合の結果について

佐藤氏より、資料 放-45-2「WP6A 会合報告書（案）」及び資料 放-45-7「次回会合に向けた今後の対応」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都 竹 主 査： 日本からの寄与文書は作業が進んで次のステップにいているという理解でよいか。

佐 藤 氏： 順調に審議が進み、前回、前々回会合に日本から入力した全ての寄与文書が新勧告案やレポート改訂案に反映されて SG6 へ上程された。

3.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び保谷氏より、資料 放-45-3「WP6B 会合報告書（案）」及び資料 放-45-7「次回会合に向けた今後の対応」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都 竹 主 査： 日本の寄与文書のうち、音声符号化方式の要求条件については勧告改訂草案作業文書にとどまり、システムアーキテクチャについては新勧告草案となり順調に進んでいるようだが、会合での進み具合はどうか。

保 谷 氏： システムアーキテクチャは内容が十分に成熟しているため、次回会合で新勧告案として SG6 に提出できると考えている。

大 出 氏： 音声符号化方式の要求条件は、審議時間が足りず議論が進んでいないが、内容に問題があるわけではなく、符号化方式の提案者が文言の精査を求めている。

西田専門委員
： オブジェクトベース音響用メタデータのプロファイルの新勧告草案に関し、日本としてどのようなオブジェクトベース音響ならではのサービスをしようとしているのか、具体的な情報を提供していくことも有用だと思うが、国内の検討状況はどうか。

大 出 氏： 情報通信審議会放送システム委員会では、昨年度の符号化方式の比較検討に続き、今年度、具体的な仕様の議論が進められている。また、ARIB では、符号化

の仕様やサービスに必要なメタデータの議論が進められている。ラポータグループに適宜情報を提供していく予定である。

西田専門委員：オブジェクトベース音響ならではの魅力的なサービスが実現できる仕様を考えてほしい。

3.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び甲斐氏より、資料 放-45-4「WP6C 会合報告書（案）」及び資料 放-45-7「次回会合に向けた今後の対応」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

浦野専門委員： 5.1 サラウンドの勧告 BS. 775 改訂草案に係る今後の対応において、各放送局で使用される事例を調査するとあるが、LFE チャンネル運用時の注意喚起が、現在の運用に影響を与える可能性はあるか。

大出氏：すでに ARIB スタジオ音声作業班で各社に状況を伺っているが、基本的に制作段階で低域通過フィルタを使用することはほぼなく、使用する場合でも音声卓で 1 回のみであり、運用への影響はないと思っている。一部、中継先やロケ先で低域通過フィルタを使用し、音声卓でも使用する事例があった。多段での使用への注意喚起であり、運用への大きな影響はないと考えられる。

都竹主査：低い周波数だと遅延が大きくなると思うが、LFE はどのくらい低い周波数を考えているか。例えば 20Hz だと 50ms となり、結構大きいのではないか。

大出氏：LFE は 120Hz くらいを想定しており、10-20ms 程度であるが、これが多段で使用されると大きくなる。サブウーファーとして LFE チャンネルを使う場合があり、低域通過フィルタを急峻な特性とすると群遅延が大きくなる。低域通過フィルタの多段使用や急峻な特性の使用を避けましょうという注意喚起である。

3.4. TG6/1 会合の結果について

齋藤氏より、資料 放-45-5「TG6/1 会合報告書（案）」に基づき、TG6/1 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

児玉専門委員：サウジアラビア、UAE、エジプトと他国で意見の隔たりが大きいということだが、これらの国は UHF 帯を IMT などの移動業務で使いたいということか。

齋藤氏：その 3 国は、UHF 帯を移動業務、特に IMT で使用しようと考えている。470-694MHz は第一地域では放送のみに一次分配されているが、この帯域を移動業務にも一次分配して携帯サービスで使いたいという意向。放送と IMT が共用できるという検討結果を出してきているが、他国の検討結果から乖離しており、議論が進んでいない。

児玉専門委員：放送を排除したいということではなく、IMT と放送が共存できるという検討結果を出していると承知した。

これらの国では、放送は VHF 帯や衛星が中心で、UHF 帯はあまり使われていないのか、あるいは、UHF 帯を放送と IMT の両方が使用できるという考えか。

齋藤氏：サウジアラビア、UAE、エジプトは地上テレビ放送を直接受信している世帯が少なく、UHF 帯の一部を IMT で使用しても共存できるという考えと推測。一方で、

例えばペルシャ湾をはさんだ対岸のイランは、国境を越えて IMT から放送への干渉を懸念している。

3.5. SG6 会合の結果について

熊丸氏より、資料 放-45-6「SG6 会合報告書（案）」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。西田専門委員から次のとおり所見が述べられた。

西田専門委員： SG6 会合では多くの出力文書の承認及び承認手続きへ進むことができたが、WP への国やセクターメンバーからの入力文書が減少傾向にあることを懸念している。日本からの寄与は効果的なものになっており、出力文書にうまく反映できていると思う。

SG6 では将来の放送ビジョンに関する文書を作成しており、ラポータグループを中心に作業が進められている。今研究会期内に放送の未来を語るビジョン文書が作成できることを期待している。

4. 郵便投票について

事務局より、資料 放-45-8「郵便投票の承認可否（案）」に基づき、ITU 無線通信局長から照会されている新勧告案 1 件、勧告改訂案 3 件、新研究課題案 1 件について説明が行われ、特段意見なく承認された。

5. その他

事務局より、資料 放-45-9「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上